

その他

東山地区を中心とした 多言語観光案内標識の整備プロジェクト

活動場所：東山区

活動時期：平成 28 年 10 月～

発表団体

京都女子大学 文学部 外国語準学科



連携メンバー

京都女子大学文学部外国語準学科の教員と学生・留学生
東山区役所（予定）

活動内容

京都市では、「歩いて楽しい街・京都」を推進するため、H23 年度から「観光案内標識アップグレード指針」に基づき、外国人観光客を含む利用者にわかりやすい案内標識を作成・配置するためさまざまな取組を行ってきた。長年の取組の積み重ねが原動力となり、「外国人が 1 番訪ねたい都市」1 位に 2 年連続で京都市が選ばれるなど、京都の国際的な認知度も年々上昇し、アジアを中心とした外国人観光客も急増している。しかし、商店街や路地などに貼られている多言語標識には、その正誤について検証されてないものが多くみられる。そこで、本学の学生と教員で「翻訳お助け隊」を結成し、多言語案内標識の整備事業を行った。

取組の成果・活動で工夫した点

東山区を中心に 6 回にわたって調査を実施した。誤表記と思われる多言語標識をすべて写真に記録し、言語別に分け、学生と教員が①文法、②表記、③意味のどれに間違いがあるかを確認しながら一部(50 例程度)の修正作業を終えた。

「教室で学ぶこととは異なる楽しみを感じた」「外国人に気持ちよく観光してもらうため、今後もこのような活動に積極的に参加したい」という学生からの声もあったが、一方、①学生が修正作業に参加する時間を充分に確保できない。②何らかの修正が必要な多言語標識が予想より多く、参加者だけでの作業に相当な時間が要するなど、今後の活動に工夫が必要な課題も見つかった。

連携メンバー・役割

京都女子大学文学部外国語準学科の教員と学生・留学生	東山区内の多言語標識の収集および修正
東山区（予定）	

今後の課題・目標

◆今後の課題

今回の取組では、①収集・修正した多言語標識をどのように形で学生、地域・行政に還元するか、②個人・商店街などが制作した多言語標識の著作権問題をどのようにクリアするか、などが課題として残った。特に、著作権問題は大学だけでは解決が難しく、地域と京都市の積極的なサポートが不可欠である。

◆目標

学生の外国語能力の向上につなげられる実用的なフィードバックシステムを構築するとともに、大学間、あるいは行政、地域との連携事業を推進することで、東山区に限らず、京都市全域を対象とした多言語標識の整備活動を展開する。さらには、京都市のバックアップをもとに、今後の取組の成果を全国に発信できる電子システムの実用化を目指す。

